

【C分科会 「玉野高等学校図書館の見学」 】

司会者 神田 有香 (岡山県立岡山東商業高等学校司書)

記録者 大園 京子 (岡山県立岡山工業高等学校司書)

I 事例発表

「岡山県立玉野高等学校・図書館について」

岡山県立玉野高等学校 小橋 康智

1. はじめに

玉野高校の概要について、玉野高校は、県南、JR 宇野線の終着駅の宇野駅から徒歩 15 分の距離に位置している県立高校である。普通科と、県内唯一の学科である国際科があるが、この国際科は昨年度から生徒の募集を停止している。現在 1,2 年生は普通科のみ 5 クラス、3 年生が普通科 5 クラスと国際科 1 クラスとなっている。普通科は 2 年生になると、進路別に、理系、文系 1 類、文系 2 類の 3 つのコースに分かれる。国際科は、「異文化の理解」や「コミュニケーション能力」、「主体的に行動する態度の育成」を目指しており、少人数での授業や、国際科専門科目、課題研究などを行っている。

2. 玉野高校図書館の概要

図書館の開館時間は 8 時半～17 時である。朝は電車通学の生徒など早く来る生徒が多いので、8 時頃には開けるようにしている。17 時を過ぎると、下校を促す校内放送が入るので、それに合わせて図書館も 17 時で閉館している。

貸出冊数は無制限、貸出期間は 2 週間であり、これは生徒も教職員も同じである。

図書館システムは、OEC「探調」を使用している。登録作業や、貸出返却はカウンター上の業務用パソコンで行う。生徒用には、インターネットの利用が可能なパソコンが 4 台と、蔵書検索用のパソコンを 1 台置いている。

図書館の運営は、総務課が担当している。総務課は教員 6 名で構成され、学校評価、PTA、広報など学校外とのやりとりの担当や、校内ネットワーク関係も含まれ、パソコンなどの管理も担当している。司書教諭もこの総務課に入っていて、この司書教諭が総務課の課長である。

図書委員会の生徒は各クラス 2 人ずつ選ばれ、合計 32 人で構成されている。分担して毎月の図書館便りの作成や、館内外の新刊案内の掲示、展示コーナーの設置、カウンター当番を行う。また、夏休みには蔵書点検、9 月にある文化祭では古本市やテーマ展示を行う。

蔵書冊数は 31,123 冊で、開架に出ているものが約 18,000 冊、残り 13,000 冊程度は書庫に入っている。書庫の本はシステムに登録していないものがほとんどなので、現在は遡及入力を行い、全ての蔵書の登録を行っている。

昨年度の受入冊数は 1,176 冊、廃棄冊数は 1,113 冊、年間貸出は 5,989 冊で、1 人当たり約 9 冊貸し出している計算になる。前年度の貸出が 8,323 冊、1 人当たり 12.6 冊の貸出だったので、一昨年よりは減少した。今年の 4 月～6 月の貸出冊数は約 1,800 冊で、これは去年と同じくらいのペースである。

貸出の半数以上が 9 類だが、マンガの貸出も多い。統計ではマンガ・絵本は「その他」に含まれる。貸出ランキングをとると『スラムダンク』や、『のだめカンタービレ』が上位に、ということもよくある。

購読雑誌は 12 誌で最新号は貸出禁止、バックナンバーは図書と同じ扱いで、2 週間まで貸出している。

新聞は 5 紙、保存期間は山陽新聞が過去 1 年間、朝日と毎日過去 1 ヶ月間の保存である。朝日新聞のみ、縮刷版を購入している。

ここからは写真を表示して、図書館のことを紹介する。これは、生徒昇降口に設置してある掲示板である。



図書館は、生徒昇降口の真上に位置している。教室が 1 階の生徒は、2 階にある図書館の掲示板だけでは新刊情報などが見えにくいので、昇降口に掲示板を設置した。

2 階の図書館の手前には移動のできる掲示板を置き、ここにも新刊や、図書館からのお知らせを掲示している。



図書館の前の廊下にも、新着図書の掲示板がある。



昇降口の掲示板と、移動式の掲示板に貼った後は、この掲示板に貼っておく。

図書館に入ってすぐ目の前にあるのが、この展示コーナーである。



建築の都合上、図書館内に柱があるのだが、その周囲に展示台がついており、そこにコーナーをつくっている。

カウンターは入り口左側に位置している。



最新の新着本はこのカウンター上に展示しており、表紙が見えるように置いてあるものには、POPカードをつけたりと工夫している。貸出・返却や、蔵書検索、生徒への対応などここで行い、新刊本の登録作業やブックコートなどもこのカウンターで生徒と話をしたり、手伝ってもらいながら行っている。

壁際にも新着本コーナーがあり、カウンターに置いた後はこちらに並べている。



名言集や詩集、占いなどの本を集めたメッセージブックコーナーも隣につくっており、ケータイ小説コーナーもここに併設している。

その隣にあるのが雑誌・マンガコーナーである。



マンガの貸出は放課後のみにしている。また、人気のマンガはカウンター内に置いてあり、司書が手渡すようにしている。

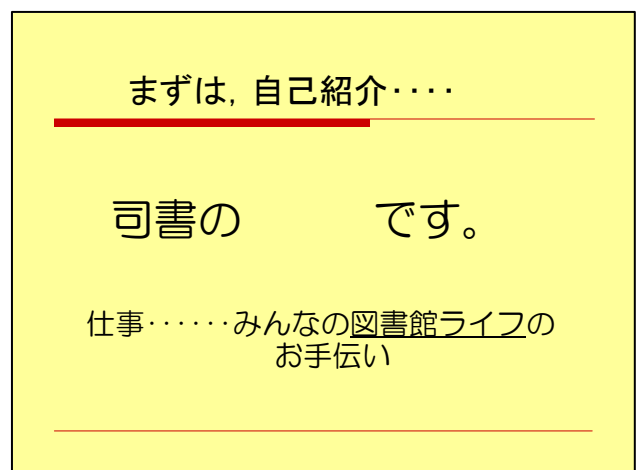
閲覧席は、8人がけの大きい机を7つ、椅子を55席設けている。授業で使うには十分な数である。



3. オリエンテーションについて

毎年、新1年生を対象に、4月から5月にかけて、総合学習から1時間、現代文の授業から1時間の合計2時間を使ってオリエンテーションを行っている。連続した2時間で行うのではなく、間が1週間程度あく時もある。1回目に図書館の簡単な説明をした後、館内を自由に見学してもらい、貸出も行う。2回目は、ちょっとした作業や、生徒同士での本の紹介を行っている。オリエンテーションはパワーポイントやスマートボードを使って行う。スマートボードは画面に直接書き込めるので、注目度が違うように感じる。

以下、実際にオリエンテーションで使ったスライドの一部を紹介する。



スマートボードで行っていたので、まず自己紹介ということで名前を画面上に直接書き込む。図書館の雰囲気を写真で紹介してから、開館日や開館時間、この図書館の蔵書が約3万冊だということ、マンガや小説、料理の本

など色々なジャンルの本があること、雑誌や新聞も入っている、ということも説明する。

図書館の資料は、館内のパソコンで、書名、著者名、キーワードなどから検索ができるということ、新着本や貸出ランキングも見ることができるということも説明する。

貸出・返却については、利用者バーコードはカウンターに置いているので、貸出の時には本をカウンターまで持ってきて、司書かカウンター当番の生徒に貸出手続きをしてもらうこと、返却は図書館に入ってすぐの返却ボックスに入れるだけで返却完了ということも説明する。

あとは、インターネットができるということ、コピーや調べものについての説明をしてから、〇×クイズを行っていく。スマートボードで行っている時には、ここに直接〇や×を書き込める。このときに図書館の本は分類番号順に並んでいるということや、もし自分が読みたい本が図書館になくても、予約・リクエストをすればよいということなどを、〇×クイズを出しながら説明していく。

1 回目のオリエンテーションのときに、このような簡単な説明をして、残りの時間は図書館を自由に動いてもらう。2 回目のオリエンテーション時には、もう少し目的を持って図書館を見てもらおうということで、資料の最後につけてあるプリントを配り、記入してもらう。そのあと、図書館を見てまわって、見つけた本をテーブル内のグループで発表し合う。1 時間目のオリエンテーションで図書館のことを知ってもらい、2 時間目で、自分の興味関心やクラスメイトの興味関心を知ってもらい、それによって興味の幅を広げてもらえたらというのが狙いである。

4. 授業利用について

授業については、基本的には先生が授業を進めるので、先生から一通りの指示が出されてから、生徒が作業にうつったあとに机を回っている。

①課題研究

課題研究は、国際科での専門科目で、2 年～3 年生にかけて継続履修する科目である。2 年生では、論文とは何かといった、構造や形式について学び、その後、実践としてグループでの研究や、個人研究を通じ、資料・データの収集や仮説の検証などを実際に行い、プレゼンテーションまで行う。3 年生になると、一人一人が個別に

設定したテーマに基づき、学年を通じて調査研究・論文作成を行う。大学での卒業論文のようなイメージである。4 月からその調査研究に入れるように、2 年生の3 学期の時点で、翌年度に自分が1 年間かけて研究するテーマを決定する。課題研究のテーマは、例えば少子高齢化・交通事故・いじめ・環境問題といった、現代社会の様々な問題から、旅行・ダイエット・お菓子・スポーツなど様々である。生徒の間でできるだけ重複しないように、また、生徒が興味を持って最後までそのテーマを調べていけるように、担当教員との面談を繰り返しながら、各自でテーマを絞り込み、決定していく。

司書は3 月頃になると、生徒のテーマ一覧を担当教員からもらい、それぞれのテーマに沿った資料を集める。利用価値が高いと思われる資料は学校図書館で購入し、また相互貸借を利用し、4 月からの課題研究に間に合うように資料を準備する。集めた資料は、ブックトラックに別置しておく。また資料リストも、生徒一人一人のテーマに合った個別のリストを作成し、それぞれに配布する。2 年生の3 学期の時点で、テーマが早めに決まっていた生徒の中には、あらかじめ、自分で参考文献リストを作成する過程まで進んでいる生徒もいる。各自で調べた参考文献や、司書が提供する資料リストをもとに、生徒は、自分がどのようなことを調べるために、どのような資料にあたればよいかを確認し、各自の課題研究を進めていく。

②戦争調べ

次は、世界の戦争や紛争、植民地についての調べ学習である。国際科の専門科目である「国際社会」や、地歴科目である「現代史研究」での授業で行われる。図書館での授業時数はそれぞれ2～3 時間程度である。その後はレポートにまとめて提出をし、クラスでプレゼンを行う。植民地レポートは、グループワークで行う。その国の概要、植民地となった経緯、現在の状況などをグループ内で分担して調べ、最終的に1 つのレポートにまとめ、それをもとにプレゼンを行う。事前に調べる国が分かっているグループのものは、相互貸借で資料の数を揃える。

戦争や植民地についてのレポートのように毎年行われる授業の資料は、学校図書館にもある程度の冊数の資料は揃っているが、相互貸借が利用できることで、資料の提供の幅はより広がっている。

③歴史新聞

夏休み課題として出される歴史新聞の作成は、事前に授業時間を利用して図書館で資料や課題の説明を行う。

A3 用紙の1枚に歴史上の事柄・人物などについて書いてまとめる。インターネット資料だけで書くのは禁止として、百科事典などを活用できるようにする。

④保育

保育の授業では、保育検定の準備をするために、おりがみや、絵本・紙芝居の読み聞かせの練習などをする。絵本や紙芝居は、一人2冊程度が行き渡るように用意している。例えば「紙芝居は12場面とか16場面のものを」、「4歳児を対象としたものを」などと指定されるので、市立や県立図書館の職員とも相談しながら用意している。過去には保育の先生のツテで、赤ちゃんを図書館に連れてきてもらい、実際に触れ合う体験をしたこともある。

⑤美術・書道

美術や書道の時間は、題材探しが殆どである。美術では、課題として自分が美しいと感じるものや、和を感じるものなどの作品を色鉛筆を使って仕上げる。書道では、心に残るフレーズや詩などを、うちわやカレンダー、父の日、母の日に贈る手紙などを筆で書くために、題材を探しに来る。詩集や名言集、熟語、また、小説の中から好きなフレーズを抜き出す生徒もいる。

5. 展示について

4月、5月には新入生向けに、去年1年間で貸出の上位だった本の展示や、玉高に来たならこの本を読もうというような人気の本やおすすめの本を展示している。その後は季節ごとの展示を入れ替えながら、テーマ展示を行う。以下は部活動紹介のパネルの写真である。



もとは、他の高校で行っていたことを採用させてもらった。4月に職員室で先生方にお知らせをして、写真と部活動の紹介コメントを出してもらい、それを模造紙に貼

って図書館内に展示する。写真は、顧問や部員が提供してくれたものもあるが、校内を撮ってまわったものもある。近くには部活動関連の本も並べて置く。

その他、七夕に笹を飾って七夕イベントを行ったり、国語の創作課題で作った本の帯を掲示したり、小説家の高嶋哲夫さんは玉野高校の卒業生で、その高嶋哲夫展をしたり、修学旅行に関する展示を行ったりと、図書委員と一緒に様々な展示を工夫している。

4・5月	新入生におすすめの本
6月	梅雨・七夕・恋愛小説
7・8月	読書感想文・夏休み課題関連 文化祭関連
9月	進路
10月	読書週間
12月	クリスマス
3学期	新年・バレンタイン・卒業

6. おわりに

玉野高校図書館の1日の仕事の中で、特に午前中に力を注いでいるのが、新聞の切り抜きである。職員室にある前日の新聞は切り抜き用にもらっているので、午前中に目を通し、切り抜きをしている。大きくテーマを決めてあるので、そのテーマごとにストックして授業や進路対策に備えている。



昼休みなどの私語は、うるさくなりすぎない限りは禁止していない。昼休みと放課後は、カウンター当番の生徒が来るので、司書はカウンターからは出る。棚を眺めて

いる生徒には声をかけたり、放課後の時間は、新刊のチェックやブックコートなどをしながら生徒の対応をしている。

最後に、今、玉野高校で人気がある本の紹介をする。テレビや雑誌で紹介された本はやはり人気が出るし、人気作家の新刊もよく貸し出される。ケータイ小説は、リクエストが多かったものから入っていたが、最近は落ち着いてきたように思う。マンガの貸出は放課後のみに限定しているが、よく貸し出される。

過去1年間の貸出ランキングは以下のとおりである。

貸出ランキング

- 1) 「告白」 湊かなえ
- 2) 「化物語」 西尾維新
- 3) 「鴨川ホルモー」 万城目学
- 4) 「君の隣で」 流奈
- 5) 「流星の絆」 東野圭吾
- 6) 「A型自分の説明書」 Jamais Jamais
- 7) 「図書館戦争」 有川浩

玉野高校で一番人気のある作家が山田悠介なのだが、すすめなくてもよく利用されているので、他の本をすすめている。『鴨川ホルモー』は映画になる前からすすめていてランクイン、『告白』は、普段本を読まないような生徒も、設定にひかれてよく読んでいたようだ。

玉野高校での勤務は今年で4年目だが、「この本おもしろかったよ」と言って手渡した本を、生徒が「おもしろかったよ」と言いながら返しにくる瞬間が一番いい瞬間だなあと思って、毎日生徒に本を手渡している。

II 質疑応答

①岡山市立中山中学校 鹿野恵子司書

Q. 玉野高校の築年数について。またマンガについて、カウンター内に置いていたり、放課後にしか貸出をしていないのはなぜか。さらに図書委員がカウンター当番で貸出等を行っているということだが、プライバシーについてはどう考えているか。

A. 図書館はもともと別の場所にあったが、この場所に移転してきて10年程。マンガの貸出について、以前は特に制限していなかったが、授業中に読む生徒が出てき、高

校生にもなってそれをこちらが制限するのはいかがなものかと思う一方で、先生方に目で見える形で対応をとる必要もあり、放課後に貸出をすれば、その日の授業中には読めないという解釈でこのようにしている。またカウンター内にマンガを置いているのは、以前に盗難があり、その防止のためである。現在、マンガの紛失は殆どない。図書委員のカウンター当番については、委員会の時にプライバシーについて説明している。また貸出の際にもバーコードをなぞってタイトルが表示されたら渡すように説明している。利用者台帳についても、貸出時以外は開かないように注意しているので、プライバシーを守ることについては徹底できていると考える。

②倉敷市立味野中学校 山野美由紀司書

Q. マンガの選書基準はあるのか。また不明本はどれくらいあるのか。

A. マンガについて、明文化された選書基準はない。マンガの購入については、課長に相談し、OKが出ればわりとすんなりと購入できる学校である。マンガの選び方については、教育的意義があるということが誰の目にも明らかかな内容のものはすんなり通る。また卒業生からの寄贈もあるのだが、課長のOKが出れば受入可能である。その反面、『まんがで読破』シリーズのような文学全集をマンガにしたようなものについては、マンガで読んだらその作品を読んだ気になってしまい、元の作品にいかないのでダメだと校内で言われている。また不明本の数について、昨年度は約100冊程度であった。

III 図書館見学

その後行われた図書館見学では、参加者たちが思い思いに書架や展示、掲示物に見入ったりしながら、目に留まったことを発表者に問いかけてみるなど、校種を超えた交流が行われた。実際に目にしたことを自校でも実践してみたい、という活発な意見も聞かれ、有意義な時間を共有する機会となった。

